Evidence Based EBPM Policy Making
SYNERGY
第 46 回生 学年通信　第 11 号 2021/10/23

今回は、興味関心とどう向き合っていくかを**やりたいこと**、**できること**、**社会に求められること**の 3 観点で考えます。

4．興味関心との向き合い方

やりたいことは今の延長にある？！

みなさんには「これがやりたい」という思いがありますか。強い興味関心は自分を突き動かす原動力となります。ただ、やりたいことが見つかっていない人も多いのではないでしょうか。そこで今回は**「計画された偶発性理論」**を紹介します。これはアメリカの心理学者クランボルツが提唱しました。現代のキャリアの 8 割は偶然の出来事によって成り立っていることから、その偶然を適切に計画できればより良いキャリアを形成できるという理論です。

興味関心も自分を取り巻く環境や刺激によって膨らみます。その環境や刺激は当然ながら偶然の連続です。その偶然を設計できればその人にとって「好ましい偶然」を引き寄せることができる、すなわち、「やりたいこと」に出会う機会を手にできるのです。そして、その実現に必要なのは**好奇心・継続性・柔軟性・楽観性・冒険心**です。

通学で目にとまるものに関心をもったり（好奇心）、キツい部活の練習に粘り強く取り組んだり（継続性）、間違えてでも難しい問題に取り組んだり（冒険心）。やりたいことが見つかっていない人はまず今この瞬間に、将来のための種をまいてみてはどうでしょう。気づいたら「やりたいこと」が目の前にあるかもしれません。

今できることだけが「自分ができること」？

自分には何ができるかも興味関心を考える上で大切な視点です。アメリカの心理学者スーパーによれば、何ができるかつまり自分の能力を考えるときには 2 つの観点があると言います。それが「適性」と「技量」です。

これは**「今何ができるか」だけではなく、「将来自分に何ができるようになるか」も考える**ことが大切だということです。自身の現在の学力やパフォーマンスレベルといった技量からできることを限定しがちですが、知能などこれから更なる飛躍が期待できるポジティブな要素、すなわち適性も加味していきましょう。より高度な文章を書く力を身に付け、より専門的な知識を学ぶことで見える景色、そんな**将来成長した自分ができること**を想像してみてください。

社会（時代や環境）の一員として

新型コロナの猛威は、大学の在り方そのものも一変させました。外国語を扱う国際系は今や様々な大学・学部が授業を開講しています。心理学部は他学科と連携し、就職支援に力を入れることで「心理学を学びたいけど就職に不安があって行けなかった生徒」の心を掴んでいます。また、人気の学部は需要が高いので、他の学部でも履修することがあり、カリキュラムポリシーの確認が一層大切となりました。しかしながら、新型コロナの感染拡大により未曽有の状態へ突入。国際系は海外留学を見送らざるを得なくなり、心理系は私立の全体倍率と個別の大学での倍率に大きなズレが見られました（全体は 3.2 倍だったが、愛知大学は前年の 3.8 倍から 1.9 倍になった）。また、授業のオンライン化等により、自宅から通える大学の受験も増えました（地元志向）。世の中の情勢を加味しながら**何が社会に求められるのか、この環境下で何をすべきかを始点にして興味関心の方向付け**をしてみると自分の使命が見つかるかもしれません。